

「保健医療科学」
第65巻 第5号 予告

特集：今後の保健師に係る研修のあり方（仮題）

保健師に係る研修のあり方等に関する検討会の報告書の概要（仮題）	島田陽子
保健師に係る研修の今後のあり方（仮題）	村嶋幸代
統括的な役割を担う保健師の現状と課題（仮題）	奥田博子
先駆的な活動報告（1）倉敷市の取り組み—キャリアラダーの構築—（仮題）	森永裕美子
先駆的な活動報告（2）神奈川県での取り組み—中堅期研修の実践—（仮題）	高宮聖子
先駆的な活動報告（3）徳島大学の取り組み—徳島県との協働体制の構築—（仮題）	岩本里織
先駆的な活動報告（4）滋賀県の取り組み—保健師アドバイザーの活用—（仮題）	大林豊子
先駆的な活動報告（5）国立保健医療科学院の取り組み（仮題）	成木弘子，他

編 集 後 記

わが国の高齢化は急速に進行し特に75歳以上人口の増大が予想され、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025年には、医療・介護ニーズの著しい増大が見込まれている。重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が目指されている。歯科医療・保健分野においても、歯科的ニーズの多様化ならびに高齢者型へのシフトに適切に対応することが求められる。今回の特集で取り上げられたテーマ「多職種連携に基づく在宅高齢者の口腔機能の維持・向上への取り組み」は、地域包括ケアシステムの構築にあたり、取り組むべき最重要課題である。

現場での取り組みを実践している歯科専門職からは、在宅高齢者に対する多職種協働による食支援の実践例が示された。歯科専門職の地域ケア会議への参加を通じて、他の職種、特に保健師・看護師と連携することの重要性が示された。実態調査の結果に基づいて、地域包括ケアシステムにおいては、「顔の見える連携」のもとに地域の特性を活かしながら、歯科医師会が調整役を務めることの重要性が述べられていた。咀嚼能力と栄養摂取状況との関係についての国内外の研究動向、また臨床・研究領域で最近注目されているオーラル・フレイルの概念ならびにそれにかかわる口腔機能評価法について説明されていた。先駆的取り組みを行っている自治体の事例では、在宅医療における歯科専門職も含めた多職種連携の実践方法が分かり易く解説されていた。

これらの取り組みがさらに発展し、研究ならびに人材育成を通じて行政施策に還元され、地域包括ケアシステムの構築の推進に貢献することが期待される。

（生涯健康研究部 守屋信吾）